

「下関ってなんだかいいな!」

湖から広がる可能性

海だけでなく、湖もある下関。
湖に愛着を持つ人たちが集まる豊田湖。
ここから広がる、未来につながる取り組みとは。

広報戦略課(☎231-2951)



①



②



③



④

- ①湖畔公園で働く人の中で、最年長の山野義人さん。
豊富な知識と、木材を扱う腕前で、一目置かれる存在です。
- ②公園管理財団の綿貫正樹支配人。
農家として、湖の水でお米作りもしています。
- ③市広報戦略課竹永佳生課長補佐。
(前市豊田総合支所地域政策課主査)
休日はカヤックの達人として、豊田湖に出没します。
- ④可能性を秘めた豊田中学校の1年生たち。
豊田湖の「未来へ続く扉」の前で。



豊田湖の想い出

下関市豊田町の中心部から車で10分ほど行くと、山々に囲まれた豊田湖が広がっています。鳥のさえずりが聞こえ、何度も深呼吸をしたくなる、自然豊かな場所です。

「湖には町が沈んでいます。小学校や中学校、郵便局、映画館もあったんですよ。140戸くらい家があったと思います。今でもどこに誰の家があったか、橋や店の場所もみなわかります」こう話す山野義人さんは、湖に沈んだ三豊中学校の最後の卒業生。今は豊田湖の近くに住んでいます。「湖に町が沈んで、寂しい感じは

しました。しかし、災害を防ぐために作ったので、しょうがないです。

湖の水は、工業用水、農業用水、飲料水にもなっています。昭和38年には、豊田湖でボートの国民体育大会が開催されたんです。私も出場しました」と、豊田湖の想い出が、堰を切ったように出てきます。

今年で83歳の山野さんは、愛着のある豊田湖畔公園で働いています。木炭を焼いたり、まきを作ったり、慣れた手つきでテキパキと仕事をこなします。作った物は、湖畔公園や道の駅などで販売しています。「買ってくれるお客さんを見ると、うれしいねえ」と山野さんは目を細めます。

身近にある素晴らしさ

公園を管理している財団の綿貫正樹さんも、豊田湖の近くに住んでいます。国体が豊田湖であった時は保育園児で、皇太子さまに旗を振った想い出があるのだとか。

「4年前に支配人に就任して、湖畔公園の素晴らしさをもっとPRしたいと思います、ホームページをリニューアルしました。施設利用やイベント参加の予約がしやすいように、LINEも新設しました。また、アウトドアの展示会やコーヒーの焙煎教室など、何度も来なくなるイベントを企画し、お客さまに喜んでいただくことを大切にしています」

公園の利用者は増えてきましたが、最近の傾向があるそうです。

「これまで、福岡県や広島県のお客さまが多かったのですが、コロナ禍で、市内の方が増えてきました。『初めて来た』という市内の方もおられます。下関に住んでいる方が、公園の価値に気付いてくれたのはうれしいですね」

そんな湖畔公園にも課題がありました。遊具の老朽化です。



①同じ太さの木を選んで、いろいろな種類の木を混ぜてまきをつくります。②中心に着火剤が埋められているスウェーデントーチ。ここでは「湖畔キャンドル」と呼ばれ、キャンプを盛り上げます。③竹で飯盒も作っています。(お米は綿貫さんが生産)



①テントや寝袋、バーベキューコンロなどのレンタルもあるので、食材を持ってきたりすればキャンプができます。②レンタル以外にも、アウトドアスパイスやまき、炭など、販売品も充実しています。お客さまからの要望も参考にしながらいろいろ取り入れています。

遊具は必要なのか

湖畔公園がオープンして以来、子どもたちに人気の大型遊具「冒険の城」がありました。ところが老朽化が進み、使用できない状況に。

施設を管理する豊田総合支所地域政策課の竹永佳生さん(当時)は「古くなったからと、単に新しくするのはなく、まずは必要とされているのか、確かめようと思いました」と振り返ります。

遊具が必要かどうか確認を依頼された綿貫さんは「アンケートで、遊

具に対する要望が多かったです。お客さまからも、いつ使えるようになるのか、しょっちゅう聞かれます。遊具は、皆さんが熱望していることをずっと、市に訴えてきました」これを受け、市は遊具の更新を決定しました。

遊具は下関の木で

市では、土砂災害の防止などを目的に、市有林を所有しています。市有林で成長に合わせて間伐した木材を有効活用して、公園の遊具のほとんどを作るようになりました。



平成7年、湖畔公園がオープンした時のパンフレット。真新しい木製の遊具「冒険の城」で喜び子どもたちの中に、綿貫さんのお子さんの姿があります。

子どもたちの声を聞く

実際に遊具を使う子どもにも愛着を持ってもらうため、昨年9月、地元の豊田下小学校の6年生に、竹永さんは出前講座をしました。

クイズを交えながら、豊田町にある木の種類、森林の役割や林業の課題などを説明。遊具には市有林の木を使うことを伝えました。その後、どんな遊具があったら遊んでみたいか尋ねました。

「みんな活発に意見を言ってくれましたが、共通していたのは、高い所、スリルのある物を求めていると



①講座をする竹永さん。②湖畔キャンドルを触って、木の感触を確かめる子どもたち。③手を上げて、活発な意見が出されました。

いうことです。それは挑戦すること、勇気の要ることと言い換えてもよいかもしれません。みんなの意見を取り入れたこの遊具で、子どもたちの思うままに遊んでほしいです。そして、木に触れ、木の温もりを感じ、自然に守られていることを知ってほしいです。これからも、豊田町を大事に思っしてほしいですね」

講座を受けた松本直輝さんは「普通の鉄みたいなのを使うのではなく、木で作るのはすごいと思います。自分が好きなのが作れたらいいなと思いました。遊具ができれば、早く行きたいです」と話してくれました。



公園で遊具を作るときに意見を出してもらった子どもたち。現在は中学生です。
「下関の木を使うことは、資源を有効活用できるので良いと思います。遊具をきっかけに、ここに来る人たちに豊田町をもっと好きになってもらえたらうれしいです」と小林彩和さん。

未来への可能性

「実はここには農園があるんですよ。毎年地元のこども園に声を掛けて、子どもたちに芋掘りを体験してもらっています。地元の小学生は、ワカサギ釣りに招待しています。釣りの上手な常連さん『ワカサギメンバーズ』が釣り方を教えて、釣ったワカサギを天ぷらにして食べてもらっています。楽しい思い出があると大人になって、また来たいと思ってもらえるかもしれません」と綿貫さんはほほ笑みます。

遊具の完成を目前に「楽しみでしようがないです。どんなイベントをするか今からワクワクしています」と綿貫さんはうれしそうに話してくれました。

竹永さんは、遊具が出来てからが大事だと話します。「これまでの維持管理体制に加え、子どもたちや地域の方などを巻き込み、維持管理をイベント化するなどの工夫も良いのではないかと思います。関わることで地域や施設の愛着へとつながり、未来への足跡となるのではないでしょうか」

冒険の城リニューアルオープン!!

8/10(水)
午後～



詳しくは、豊田湖畔公園
HPかお電話で、ご確認ください



豊田湖畔公園
☎766-3488

